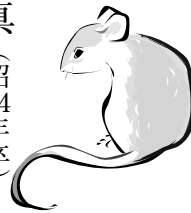


洛友会会報

京都大学電気系専攻内
洛友会
〒615-8510
京都市西京区京都大学桂
075-383-7014
www.rakuyukai.org

図書館について

洛友会会長 長尾 真 (昭34年卒)



新年明けましておめでとうございます。
洛友会の皆様方には清らかな新年を迎えられ、心を新たに今年のあるべき姿、自分のやるべきことを静かに考えておられることと存じます。

昨年も洛友会は例年どおりに順調に活動をしてまいりました。特に東京支部は講演会を積極的に行うなど、活発な支部活動を行われ、喜ばしく存じます。電気系教室に

おかれても桂キャンパスでの教育・研究が定着し、新しいセンター・オブ・エクセレンス(COE)予算も取ることができて、ますます発展しております。心強いこととあります。洛友会事務局も教室にお願いしてよく運営していただいております、感謝いたします。

さて、私は昨年の4月に国立国会図書館長に就任してから今日まで、図書館のことについていろいろと経験してきましたので、そのことについて少し話をさせていただきます。

図書館は大きく分けて、小中学校にある学校図書館、大学にある大学図書館、一般社会の人々を対象とした公共図書館、企業や専門分野の協会などが持っている専門図書館、それから国立国会図書館という5種類が存在します。その

中で家庭に最も近いのが公共図書館で、県立、市立、町立などの図書館があります。これらはそれぞれの地域に密着して住民の要望を満たすべく図書や雑誌を選び、閲覧に供するとともに貸し出しなどを行っています。

今日の公共図書館にはいろんな悩みがあります。そのひとつは予算がどんどん削減され、また図書館職員の数も減らされていることです。ひどい場合には、図書館長以外はすべて外部の人材派遣会社に丸投げで運営を任せてしまっている自治体も存在します。図書館は単に要求された本を貸し出すだけではなく、こういうことを知りたい、こういった関係の勉強をしたいといった質問の相談に乗って、適切な本を紹介することが一つの大切な仕事なのですが、そういったことは経験を積んだ専門の司書でないと十分にはできないのです。したがってアウトソーシングでは図書館のサービスの質が低下してゆくわけです。

ら、それらの中からそれぞれの地域の図書館にとって適切な本を選ぶということは大変難しい仕事なわけですが、図書館としては5年、10年たっても利用される本をできるだけ多く購入したいということですので、ベストセラーを何冊も購入することは悩ましいことなのです。

私のいます国立国会図書館は大変特異な存在です。図書だけで約900万冊、その他資料類を合わせると約3300万冊を持っていますが、名前が示しますように、この図書館は国会に対するサービスが第一の使命で、国民に対するサービスはその次に位置付けられています。国会に対するサービスというのは、国会議員の行う国会の各種委員会での質問、その他のいろいろな議員活動のための資料要求や質問に対応することや、議員立法をするときの各種調査資料の提供などです。国会図書館自体が直接調査をすることはありませんが、調査資料などを取り出して整理し回答するとか、特に最近では同じような問題に対して海外の各国はどういう状況にあるか、どのように対処しているかといったことの調査があります。昨年度は1年間に4万5千件の問い合わせが国会議員からありました。国民に対するサービスとしては、これまでは全国各地の人たち

迎春

二〇〇八年一月一日

本 部 役 員

名誉会長 近藤 文治
会 長 長尾 真
副会長 松本 慎二

支 部 長

市原 達朗
石川 順三

本 部 幹 事

木村 磐根
神戸 俊夫
大澤 靖治
吉田 進
鈴木 実

関西 田中 宏毅
東京 向井 利典
中部 根石 信行
中国 細田 順弘
四国 武智 泰三
九州 深堀 慶憲
北陸 松木 純也
東北 井上 茂
北海道 中山 道夫

の要求がその地の公共図書館で応えられない時に、その公共図書館から国会図書館に問い合わせが来て、それに応えるという形、すなわち公共図書館のバックアップ図書館として機能してきました。しかし今日インターネット社会となつてきましたので、人々は直接国立国会図書館にアクセスして資料要求すれば、その資料のコピーサービスを受けられるというシステムが構築され、どんどんと使われるようになってきています。皆様にもぜひ一度国立国会図書館のウェブサイトを覗いていただきたいと存じます。

さて、最近インターネットを通じて非常に多くのことを知ることができるようになってきました。ウィキペディアという名前の電子百科事典は多くの人がそれぞれの知恵を出し合つて作っているもので、30万、40万項目ともいわれる内容があります。書かれています内容の信頼性はやや低いようですが、多くの人は便利に使つて、家庭で百科事典を買う必要がなくなつています。青空文庫というのは、著作権の切れた小説などをコンピュータで自由に見ることもできるもので、本を買う必要がありません。アマゾンという検索システムを引けば、自分の欲しい本を注文して数日で手元に届けられます。グーグルは図書の電子化

をどんどんと進め、これらを広く世界に公開しようとしております。このような動きの中で、これからの図書館がどうあるべきかは真剣に問われねばならない状況にあるわけですね。時代が急激に変化しております。

洛友会の皆様の中でも、若い人たちの多くはこういった情報過多の環境をも自分なりにうまく利用しながら生活しておられるでしょうが、年配の多くの人はこういった動きになかなかついてゆけず困つておられるのではないかと推察いたします。私もその一人で、手元のパソコンが変な動きをするともう全くお手上げで、息子が来て直してくれるまでは多くの知り合いとのメールの連絡もできず、イライラの毎日となつてしまいました。誰でも簡単に気楽に使えるコンピュータを実現しなければならぬと以前から主張してきた人間としては、自らそのような研究開発に没頭しなければならぬのですが、なかなかそつともゆきません。

しかし考えようによつては、あまり便利すぎるのも問題かもしれません。なんでも苦勞せずにくらべてしまふとなると、逆にそういったことに振り回されてしまいます。何の情報もない静かな時間を持ち、人生のいろんなことについて深く考え、明日への力を養うということも大切でしょう。昔は

立派な生き方をし、日本のために尽くした人々が多かったのは、そういった時間を持っていたからではないかとさえ思われます。また、自分の好きな本をゆつくりと読みながら過ごすのもよろしいのかも知れません。

私は国立国会図書館の標語として「知識はわれらを豊かにする」という言葉を掲げました。時間を大切にし、心豊かな人生を過ごしたいものです。今年も皆さんにとつて良い一年でありますよう。

教室だより

電気系教室懇話会報告

平成19年度の電気系懇話会が10月26日(金)に吉田キャンパスにて開催されました。学部教育や情報学研究科に属する研究室が吉田キャンパスにあり、研究室配属前の学部学生にも広く講演会を聴講してもらいたいという考えから、昨年に続き吉田キャンパスでの開催となりました。また、昨年に引き続き洛友会との共催という形をとっていますが、これまでのように企業単位で卒業生に連絡する縦のつながりに加えて、昨年からは横のつながりとして、洛友会年度代表者にも各学年の卒業生への連絡を電子メールにてお願いしてお

ります。また今年も、洛友会名簿が更新され電子メールアドレスが会員情報として登録されたため、電子メールアドレス登録者には直接案内を差し上げることになりました。当日はあいにくの雨模様でしたが、昨年より多い170名以上上の卒業生・教職員・院生・学部生にご参加いただきました。

第一部の講演会は電気総合館大講義室で行われ、電気工学専攻長の引原隆士教授が司会を務められました。ご講演に先立って、電気電子工学科科長の佐藤亨教授から挨拶がありました。

最初のご講演は、上田暁亮先生(京都大学名誉教授、早稲田大学理工学術院 客員研究員、(独)理化学研究所 客員主管研究員)による「カオス生誕当時の京大電気系教室の回想と後輩への期待」でした。講演会に参加している若い学生のために、ご略歴を古き良き時



迎春

二〇〇七年一月一日

京都大学

電気関係教室

教員一同

松下電器産業 謹誌

GSYUASA
株式会社
ジーエス・ユアサ
コーポレーション
代表取締役社長 依田 誠

高周波熱錬 謹誌

代表取締役社長 山下 英治

S C C

代表取締役社長 松尾 泰



代の思いとともに、ご紹介されました。また、カオス誕生の経緯をご説明されるため、非線形微分方程式において、パラメータの微妙な変化で生じる現象についてコンピュータを用いて示されました。同期現象を、当時アナログコンピュータを用いて地道に記録していった結果が、決定論的システムに生じるカオスの発見につながったことを当時の研究室の状況を変えながら、ご説明いただきました。後輩への期待として、教員には基礎研究の重要性を強調され、外部資金獲得にあくせくしている私等には非常に身につまされる思いをしました。若い教員や学生には、信じる道を貫くには面従腹背もやむを得ないとアドバイスされました。さらに、京都大学電気系の学生は優れた資質を有しているが、日々の精進を忘れてはいけない。ネットで検索するよりも、自分で考えることを大切にしながらと締めくくられました。

2 番目のご講演は、千本倅生氏（イー・モバイル株式会社 代表取

締役会長兼CEO）による「モバイルビジネスの将来とベンチャー起業」でした。最初にご自身の大学時代を振り返られるとともに、米国へ留学された経験から京都大学の学生が、外国の大学生に劣りもせず、また勝つていない事を話されました。また、そうでありながら外へ出てゆこうとしない事や、持てるヒューマンリソースのポテンシャルを引き出していない大学に対する厳しいお言葉がありました。つづいて、電電公社部長であった1980年代当時、市外電話料金の高さに疑問をいただき、パートナーとして京セラ稲盛会長を得、電電公社をひと悶着ありながらも退社、第二電電設立に至り電話料金値下げを実現し、さらにイー・アクセス設立で、正当な競争市場の中で日本のADSLを世界で最安にまでする事ができた事を紹介されました。そして現在は、同輩の方々が隠居生活に入っている年齢で、イー・モバイルを設立し、単なる携帯電話ではなく、モバイルブロードバンドとしてビジネスを展開されている事を生き生きと語っていただきました。最後に、ベンチャービジネス起業に対する姿勢で話しを締めくくられました。このメッセージは、学生さんにとっても大きな刺激になったようです。

第二部懇親会は、午後6時00分



より生協吉田食堂において開催されました。司会は電気電子工学科学科長の佐藤亨教授が務められました。懇親会の冒頭、坂井利之名誉教授にご挨拶を頂いた後乾杯の音頭をとっていただき、その後は講師の先生方、名誉教授の先生方、卒業生、教職員、院生・学部生が懇親を深めました。懇親会の最後は、電気電子工学科学科長の佐藤亨教授の中締めで締めくくり、午後7時30分にお開きとなりました。

最後になりましたが、ご講演を快くお引き受けいただいた講師の先生方をはじめ、遠方よりご参加いただきました卒業生の皆様、ご参加くださった教職員、院生・学部生の皆様に厚く御礼申し上げます。また、共催となりました洛友会には、名誉教授の先生・卒業生へのご連絡等多大なサポートをいただきました。これからも卒業生、教職員、院生・学部生の交流の機会として懇話会を利用していただければ幸いです。

舟木 剛（推薦） 記

**名誉教授 池上淳一先生
ご逝去**

訃報欄にありますように、名誉教授の池上淳一先生（昭18年卒）が12月23日に入院先の京大病院で逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

**cueの国会図書館への
寄贈**

長尾真会長長の巻頭言にも関連して昨年11月、「cue京都大学電気関係教室情報誌」を創刊号から既刊の18号までの全号を長尾会長を通して国立国会図書館に寄贈しました。またcue編集委員会からの提案で、逐次刊行物に与えられる固有の番号ISSNを国会図書館に申請し、ISSN 1882-5214 が与えられました。この登録はcueが国内のみならず国際的にも認知されることにもなるという利点があります。

**研究室对抗野球大会
表彰式**

26チーム（34研究室）が参加して6月から行われてきた研究室对抗野球大会（世話役は前年度準優勝の引原研究室）が12月19日の三位決定戦をもって終了し、25日に表彰式が行われました。今年洛友

宇宙技術開発 誌
代表取締役社長 松尾 泰

**電子開発学園
北海道情報大学**
理事長 松尾 泰

誌 村田製作所
代表取締役社長 村田 恒夫

誌 電気評論社

**財団法人
近畿地方発明センター**
理事長 近藤 文治

**財団法人
応用科学研究所**

会から寄贈されたピカピカの優勝カップが、優勝の情報回路方式研究室(旧中村(行)研究室)の代表者に、副会長の石川順三教授より授与されました。なお、準優勝は松重研究室、三位は鈴木研究室でした。



教員の異動

昇任 (平成19年11月1日付)
 ・電気工学専攻 山本 修 講師
 (大澤研)
 (平成19年12月1日付)
 ・エネルギー理工学研究所 長崎 百伸 教授
 (高品位エネルギー変換)
転出 (平成19年11月1日付)
 ・電子工学専攻 川下 将一 講師
 (光・電子理工学教育研究センター、高岡研) 東北大学

会員寄稿

カンボジアでの生活

辻 直一

(昭61年卒・中国支部)

卒業して20年以上中国電力に勤務してきましたが、2006年9月から1年ほど国際協力機構(JICA)の専門家としてカンボジアに派遣されましたので、今回そのお話を紹介したいと思います。

皆さんご存知のこととは思いますがカンボジアは1970年代に始まる20年におよぶ内戦がありました。その後1991年のカンボジア和平パリ協定により平和を取り戻し、現在、復興への道を歩んでいます。しかし、20年もの内戦で国は荒れ果て、多くの知識・人材も失われて、復興は容易ではありません。金も物も人もいない中で復興です。そのような状況の復興ですから多くの国の援助が必要で、実際に多数の国がいろいろな分野で援助を行っています。日本はその中でも最大の援助国です。

私の出向先のJICAは発展途上国を援助する独立行政法人で、JICAからカンボジア電力庁に専門家として派遣されました。肩書きが実際に「専門家(英語では「エキスパート:Expert」)で、支援する分野についての知識・技

能が豊富で、派遣先機関に何か具体的な物を作りながら技術移転するのが仕事です(物を造って渡すのが目的でなく、物造りを通じて派遣先機関に技術を移転するのが目的です)。外国人が相手ですから語学力とコミュニケーション能力が必要で、専門分野の知識・技能を加味したうえで選定されます。

一方、私の任務は電力設備の技術基準細則の作成です。電力設備の技術基準細則とは電気を発電してからお客様に送るための電力設備(発電設備・送変電設備・配電設備等)に関する基準で、日本では「電気設備技術基準の解釈」がこれに当たります。これを派遣先機関であるカンボジア電力庁のスタッフと作ります。この技術基準細則作成プロジェクトは3年のプロジェクトで、前任者が2年で細則案を作成し、私が最後の1年で仕上げ、大臣のサインを得て法律となりました。

さて、これからカンボジアでの私の生活を紹介します。私はカンボジアの首都プノンペンで1年間生活しましたが、やはり一番大事なのは健康と安全です。日本でも同じことですが、生活面に不安が無くて初めて安心してプロジェクトに専念できます。健康のためにはなま水・なま水を送るとか、規則正しい生活を送るとか

す。運動不足解消も図ってみましたが、結局長続きせずこれは守れませんでした。安全については深夜に歩かないとか、危険なエリアにはいかないとかです。カンボジアは近年治安が良くなったといっても、日本と比べるとまだまだ危険です。また、昼は大丈夫でも夜は危険な場所もあります。とは言うものの、通常の注意さえ払えば普通に暮らせて何の問題も無い都市です。

このような事情から、プノンペンではメイドと運転手を雇っていました。メイドと運転手を雇うと聞くと贅沢な暮らしをしていると思うかも知れませんが、人件費が安いので金銭的な負担はあまりありません。私のように自分で料理ができない人間はメイドか外食しかありませんし、公共の交通機関のないプノンペンでは運転手が必要で、おかげさまで、病気や怪我もなく、無事に任務を終え、帰任することができました。

また、事務所では秘書を雇っていました。事務所といっても派遣先機関の1部屋をあてがってもらっているだけで、普段は彼女と2人です。秘書としての業務も重要ですが、私にとっては現地人とのコミュニケーションに欠かせません。私の相手は英語が話せる人ばかりでないし、カンボジアの文化や風習を学ぶには持って

株式会社 田中プリント

来いでした。教えてもらわなければ分からないことは多数あり、いろいろとカンボジアについて教えてもらいました。

一方勤務の方に話を移すと、月曜日から金曜日が勤務日で、午前7時30分から午後5時30分が勤務時間で、昼休みは正午から午後2時です。私は昼休みを1時間で切り上げて、午後6時か7時ぐらいまで勤務していました。また、休日もほとんど仕事で、そのため忙しい毎日でした。現地では私が計画を立て、具体的に誰が何をいつまでにするのかを示さないと現地人は動きません。自分たちで考えて進めていくことを現地の人に期待できるほど育っていません。スケジュール管理も甘いので、しばしば進捗を取り把握しておく必要があります。また、考え方や仕事の進め方も日本と違い、それらによる誤解や苦勞もありました。

このように書くとも悪いことだらけで面白くなかったように見えますが、私もありませんが、このような状況の中で自分で考えて、現地の人を巻き込みながら進めていくのは

楽しいものでした。苦勞といえは苦勞ですが、何かをするたびに新しい発見があり、新しい経験があり、すべてが新鮮です。それらは日本や会社では経験できないことばかりで貴重な体験です。そして、自分のしていることがカンボジアの役に立ち、喜ばれるのはうれいものです。皆さんも機会があれば是非JICA専門家に応募することを勧めします。

サロン・コンサートの企画をはじめ

安井 敏雄

(昭41年卒・東京支部)

人と人との「出会い」は、様々な「めぐりあい」が、お互いの関心事を共有し、発展させてくれます。そして、それは自分が経験しなかった分野で活躍する人々や、異なる領域・文化への理解を一層深めてくれます。

私は、ブロードバンドADSLや携帯電話の新規事業者として参入しているテレコムベンチャー企業の経営幹部として、めまぐるしく過ごしていますが、多くの人のクラシック音楽での接点があり、いまサロン・コンサートという形で醸成されつつあり、人生で幸せな出来事を創り出しているのではと密かに感じています。

京都洛星高校でオーケストラ部

の創設に関わり、京都大学に入学後、京都大学交響楽団でその活動に「感動をつくる喜び」を見いだし、「情熱」を注いだ毎日を過ごしていました。

「反戦・自由」の京大の気風は、交響楽団が毎年2回の定期演奏会を戦争中も一度も欠かさずに続けたという歴史や伝統に表れており、「その革新性」は、私が入部時、いまでは多くの大学のオーケストラでも当たり前になりましたが、プロの指揮者を外部から迎え厳しく指導を受け自分たちで納得のいく音楽を創り上げていくことを先輩をはじめた時期でした。「オケ改革」とでもいうのでしょうか。

この結果、若杉弘、岩城宏之、秋山和慶、奥田道昭、朝比奈隆、近衛秀麿といった当時の桐朋学園や東京芸術大学出身で活躍されていた若手指揮者の方々が、すでに著名な方などから演奏会にご指導を受ける機会を得ましたし、交響楽団が素晴らしい飛躍をしたときで東京特別公演を企画・実行しました。

熱意あまつて多くのオケ仲間が留年する結果になり、私も真剣に悩みました。

これ程熱中した音楽ですが、アメリカに留学した途端に楽器を手にしなくなり、

社会人になっても音楽を続け、

オーケストラ活動など続けている友人をみると、仕事と楽器演奏の両立を続けるような器用さは自分にはないかと羨ましくまた感心してきました。

ビジネスの第一線からも身を引いたので、好きなことをやろうと模索し始めたのは三年前のことです。

優秀な女流若手バイオリニストの梅津美葉さんと偶然再会し気がついたら音楽に回帰してました……といっても、楽器演奏ではなく、サロン・コンサートの主宰です。

私という個人レベルでも「何ができるのかな？」と模索し、「自分たちでできることからやろう」ということで、家内と二人で始めました。曲目や共演奏者など梅津さんに企画してもらいます。クラシックの室内楽を生の音で、しかも一流奏者のすぐ近くで聴き、その後緊張を解かれた奏者の方たちと家内の用意したワイン・パーティで歓談懇親いただくものです。秋に鎌倉・東京 春に京都と回を重ね、皆様から大変好評です。

二百名近くの方がお越し下さるようになり恩師の矢島脩三先生ご夫妻、木村磐根先生、長尾真先生ご夫人、池田克夫先生ご夫妻、故上林弥彦先生ご夫人など音楽に興味をお持ちの先生がたも熱心にお越しいただいています。

そうこうするうちに夏のシーズンにもうひとつの「音楽」活動が増えました。八ヶ岳を望む蓼科・三井の森にあるコンサートホール付の宿泊施設に、プロとアマチュアの演奏家達が集い空気の澄んだ緑一杯の森の中で室内楽を中心に音楽合宿、それにゴルフの好きな仲間が一緒になって集う楽しい企画です。練習成果の演奏発表と、技術・ビジネスなど各方面の分野の講演からなるレクチャー・コンサートを開き、終了後に打ち上げパーティを開催。全員一緒になってグラスを傾けつつ自分の知らない異なるいろいろな分野のことを話すという趣向です。今まで講演も「電磁波と健康」「日本の携帯電話はなぜ高いのか」さらには「液晶ディスプレイではなぜ金色は出ないのか」などありました。

今年第2回目でしたが、十年のスパンで充実したものをと考えています。

高校・大学での先輩であるフルート奏者佐々木真さんと始めたものですが、その趣旨から「コミングル@蓼科」の会と名付けています。電気系同窓生の、千本倅生夫妻、藤林信也夫妻、今中良一、松本幸男、江上貞夫、織田莞二、後輩の小林紘一諸兄も積極的に参加して下さっています。

こうした活動ですが誰のためというより、「自分自身が好きでし

ているんだ」と「気負いのない自然体」です。「少しでも多くの方に音楽を好きになるきっかけをつくり、若い人々には人の道を誤らないことを考える機会を与えることができれば」とは秘かに願っています。

新聞では、毎日親が子を、子が親を殺すような記事ばかりが目につき、人々はそれに驚かなくなっ

てきています。ごく当たり前に「気の毒」な人への「思いやり」や「人の心の大切さ」を想う心を取り戻すことに、少しでも役立つことができればと。

自分の育った時代、ものの貧しさはあったけれども「心」を教えしてくれた親、先生、学校、近隣づきあいの「教育環境」を思い起こ



梅津美葉サロンコンサート

平成19年10月20日 東京代官山ヒルサイドプラザホール

します。

小学校時代の音楽の先生が「ハ
ーモニカを吹くのが上手だから、
ヴァイオリンを習わせたら」と、
母に勧めてくれたことがここのま
の趣味に発展したと思うと、クラ
シック音楽を通してもし誰かに
「何か一つ好きなこと」を与える
きっかけを作ることができたら
ば、大変やり甲斐のあることのよ
うに思えます。

昨今いわゆる「美しい日本」の
国づくりに、私も少しは関係し、
寄与することができるとも思っ
ている次第です。

ご興味あるかたは、是非

www.coming.jp

をご覧ください。(連絡もお待ち
しています。

本文中に、恩師の先生方や奥様、
さらに同窓生諸兄に断りなくお名
前を掲げさせていただきましたこ
とをお断りします。ご理解の程お
願いします。

支部だより

関西支部家族見学会報告

関西支部では恒例の家族見学会
を10月13日(土)に開催しました。
本年は、52名の参加をいただき、
国立国会図書館関西館、きつづ光



科学館ふおとん、月桂冠大倉記念
館を訪れました。

京都駅をバス2台で出発し、け
いはんな学研都市にある国立国会
図書館関西館に到着すると、国立
国会図書館長の長尾先生をはじめ
職員のみなさまにお出迎えいた
されました。私たちは、関西館の役
割について説明を伺った後、大規
模な書架や自動書庫からの資料搬
送設備を見学しました。また、関
西館には46万点の国内博士論文が
所蔵されており、その中から日本
のノーベル賞受賞者の博士論文も
閲覧させていただきました。

その後、正倉院近くの食事処で
昼食です。田中支部長のご挨拶の
後、おいしい食事を頂きながら相
互の親睦を図りました。

午後は、国会図書館から程近い
ところにある、きつづ光科学館ふ
おとんを見学しました。この科学
館は関西光科学研究所が建設、平
成13年にオープンしたものです。
私たち一行は光の不思議を体験
し、光の基本的な性質から最先端
の利用技術まで楽しみながら学ぶ
ことができました。

その後、一行は京都伏見にある
月桂冠大倉記念館を訪れました。
ここでは、京都市指定の有形民俗
文化財に指定された貴重な酒造用
具類を見学、伏見の酒造りと日本
酒の歴史を学んだ後、明治大正期
に販売された吟醸酒の復刻版を味
わいました。また、この一帯には
江戸期から平成に至る各時代の酒
蔵や建造物が集まっていて、幕末
の風情を感じることもできまし
た。

天候にも恵まれた今回の見学
会、いろいろ学び楽しみながら相
互の親睦を図れた一日でした。

内田 堅二(昭62年卒)記

第88回関西支部
ゴルフ競技会報告

第88回関西支部ゴルフ競技会が
平成19年10月20日(土)武庫ノ台
ゴルフコースにて開催されまし
た。

当日は晴天に恵まれ、アウトは松
福川氏(昭和30年卒)、インは松



尾氏(昭和38年卒)の始球式で
プレイを開始し、合計19名(内、シ
ニア7名)が競技に汗を流されま
した。

結果は次の通りです。

(シニアの部)

- 優勝 西村登努志 (S38年卒)
 - 2位 松室 憲尚 (S33年卒)
 - 3位 伊藤 俊一 (S34年卒)
- (一般の部)
- 優勝 服部 和夫 (S42年卒)
 - 2位 小林 勝 (S42年卒)
 - 3位 亀山 卓郎 (S42年卒)

△第89回競技会のご案内▽
平成20年5月17日(土)
於 武庫ノ台ゴルフコース
多数のご参加をお待ちしており
ます。

△連絡先▽
関西電力
三浦 良隆 (S55年卒)
岡崎 俊範 (H12年卒)
050・7104・0925
okazakitoshinori@e4kepc.co.jp

訃報

昭13	山口 高雪	18	・12	・14
昭18	伊藤 義一	19	・11	・13
昭18	池上 淳一	19	・12	・23
昭24	安房 敦夫	19	・10	・23
昭25	大野 彰	19	・11	・12
昭27	鈴木 郁朗	19	・9	・8
昭29	白杉 茂	18	・12	・31
昭29	地主 利男	18	・8	
昭30	龍冶 隆	19	・12	・18

以上の方がご逝去なさいました。
謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

新年明けましておめでとうござ
います。会員の皆様のご健康とご
多幸をお祈り申し上げます。

桂キャンパスに建造中だった船
井哲良記念講堂及び船井交流セン
ターが完成し、昨年10月20日に竣
工記念式典が行われて使用が開始
されました。これらの建物は、船
井電機(株)代表取締役社長船井
哲良氏の「わが国の学術研究の発
展や産業の競争力強化に貢献した
い」という意向により、京都大学
の教育研究活動に寄与するために
寄贈されたもので、講演、会議な
どに利用することが可能です。

(http://www.kyoto-u.ac.jp/top2/19-top.htm)